

笑いを楽しむ

- 1.講 座 日 2025 年 4 月 18 日(金)
- 2.テ ー マ 太神楽曲芸～世界を笑顔にする芸能
- 3.講 師 豊来家幸輝氏 太神楽曲芸師
- 4.学習内容

(1)講義

・太神楽曲芸の歴史

伊勢神宮、熱田神宮が発祥の地であり 400 年以上の歴史が有る。
日本最古の芸能といえる。

・太神楽の名前の由来

庶民は中々お伊勢参りに行けないので、お伊勢さんの方から庶民のもとにくる代
神楽→太神楽となる。太神楽は神事芸能だった。

・太神楽の推移

江戸時代の後期に寄席芸として発達し、現代の歌舞伎、能、狂言、文楽などの諸芸の起源と
なっている。

・明治・大正になると太神楽曲芸は大道芸から寄席芸へと変化していく。

曲芸の 3 本柱は、回す、投げる、立てるである。

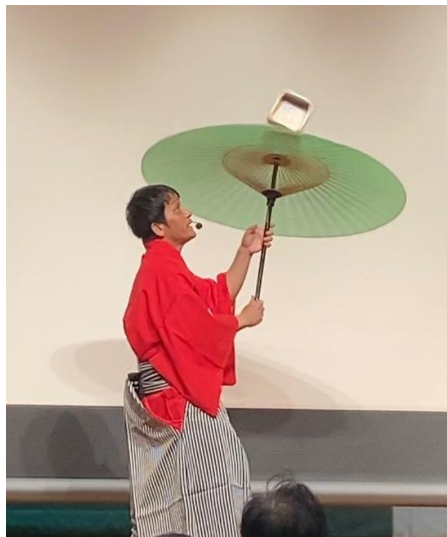
・西洋のジャグリングと異なり、太神楽曲芸は見る人に福をもたらし、世の中の平穏無事を願う 人々を元気にする芸能になっていく。



(2)曲芸の鑑賞 すごい技の連続！ 太神楽曲芸を目の前で見たのは初めての人が多かった。



おでこの上に傘が。
おでこ痛そう！



傘回し

茶瓶・毬・金輪が傘の上で大きく
回ったり、小さくまわったり…
四角い枳も。

五階茶碗

顎に撥を載せ、撥や板・茶碗
を積み上げていく。撥と撥の間
に毬を挟んだり…。細い糸で
空中に釣り上げたり。上の総を
回したり…。ドキドキの連続。
皆、息をつめて見ていました。





一つ毬

糸を巻いて作った1キロの毬と2本の撥の様々な芸の最後は手を使わず額の上の撥に毬を載せる。超難度の技！

土瓶の曲

かつてお正月番組で染之助・染太郎がよくやっていた芸。今は、豊来家幸輝氏だけ。口に加えた撥に土瓶を載せて、撥の上を前後の動いたり手を使わず蓋をとったり、土瓶が宙返りしたり…。まるで土瓶が自分の意志で動いているよう。

(3)ワークショップ

- ・**バランス芸**…紙テープ(40センチ程)を二つ折りにして、バランスを取りながら手の平に立てる練習 ➡
 - ・**プラスチックの皿回し**…手元は動かさず皿が乗っている棒の端のみ振動させて皿を回す。
- 講師の指導の下、全員が挑戦した。

★最後は全員で大円になって、一枚の皿を回しながら次の人に渡していく皿回しリレーを行い、大盛況であった。

